武蔵野
信陽舎 舎友会報

会　報
第 16 号

2025年4月1日発行
公益財団法人 信陽舎 舎友会
発行人　林　　史典
舎友No. 67
千葉県四街道市みそら

第8回舎友会総会・懇親会 東京で開催

令和6年（2024年）9月7日（土）正午～16時00分　　於：　新宿三平ビル 7階　サンパークホール

出席者は、舎友30名（首都圏から22名、長野県内から7名、滋賀県から１名）、ご来賓２名（榊原先生、長谷川寮母）、招待の寮生４名の総勢36名であった。 11時30分、受付開始とともに続々と出席者が集まってきた。 参加者は受付で参加費を払い、名札、総会資料、会報「武蔵野」第15号、信陽舎パンフレットを受け取って会場の指定されたテーブル席へ。

総会開会時刻の12時、深澤克巳舎友会副会長の開会宣言、出席者数の報告後、議長に選出された林史典会長が議長席につき総会がスタート。

先ず決議事項として、福與事務局長から令和5年度事業報告と会計報告が、原誠監事から監査報告があり、審議の結果満場一致で承認された。

続いて、令和５年度事業計画、事業予算を審議し、いずれも満場一致で承認された。 報告事項では、各支部報告として、南信支部は池野兼浩事務局長、中信支部は竹村治恭幹事長、北信支部は田尻実幹事長が報告を行った。 ひき続き、令和6年度寮生募集結果及び寮生活の近況並びに法人運営報告が福與理事長よりあり、12時25分、深澤副会長の閉会宣言で第8回総会は閉会となった。

（後列）田尻実・原　誠・山口章裕・寺島裕一郎・池野兼浩・吉村信二・松尾龍・田中淳一・宮嵜健太・髙橋諒多・後藤亮太・宮坂佳樹
（中列）小林隆・北原康夫・伊藤寿彦・井上潔・浅沼弘愛・保坂直人・森田圭洋・後田健太郎・駒井創・岩原優　（最前列）上松三治彦
（前列）鈴木昭夫・牧野憲治・金田憲治・原錬造・榊原雅直先生・牧内良平・林史典・深澤克巳・片桐勝臣・福田璋夫・竹村治恭・長谷川廣子・福與卓臣

第8回懇親会

原監事の司会進行で懇親会開宴

林会長挨拶

榊原先生来賓挨拶

牧内顧問乾杯挨拶

総会開催報告

第8回舎友会懇親会

原誠監事の司会でスタートした懇親会は、冒頭、武蔵境寮の舎友物故者72名のご冥福を祈って１分間の黙祷！　浅沼弘愛副会長の開宴宣言、林史典会長による挨拶、榊原雅直先生による来賓挨拶、牧内良平顧問の乾杯の挨拶と続き、楽しい懇親がスタート。

13時50分、余興として舎友の北原康夫さん（舎友No.165）による尺八演奏が行われた。 軽妙なる口上とユーモア溢れる語りを交えながら、「函館の女」、「春の海」、「ラノビア」、「千曲川」を演奏。 学生時代から嗜み、尺八教室で教えているだけあり素晴らしい演奏であった。 14時20分、参加者の自己紹介では一人ずつマイクを持ち寮生活の想い出やら人生訓、現況など笑いを誘う楽しい話でおおいに盛り上がった。 15時30分、寮歌と信濃の国を北原さんの尺八伴奏、牧野憲治さん（舎友No.157）の音頭で斉唱。 15時40分、池野副会長による閉宴宣言に続き、田尻北信支部幹事長による三三七拍子の中締めで第8回懇親会は閉宴となった。 来年の第9回総会・懇親会は中信支部主催ということで、松本での再会を楽しみに解散となった。

北原康夫様の余興　”名口上と尺八演奏”　　尺八の伴奏で寮歌と信濃の国斉唱　　池野副会長閉会宣言　　田尻北信支部幹事長中締め

支部報告

令和7年度 第9回舎友会総会　松本市(アルピコプラザホテル)開催が決定 ！

中信支部再編総会　令和6年10月19日午前11時30分～午後2時00分　松本市・中国レストラン聖紫花(ホテル・ブエナビスタ1階)

舎友会中信支部は、会長の中山卓さん（No.103）が令和4年6月に亡くなられたことで組織の再編と来年（令和7年）中信地区で開催される第9回総会の準備を進めるために再発足総会を開催した。 参加者は、小池章（76）、深澤勝吉（135）、竹村治恭（140）、中村與志人（191）、山越晴彦（251）、田村裕昭（264）、滝澤敏章（274）、岩原伸（290）、両角旺大（610）の9名に南信支部の池野兼浩（298）、東京本部の福與卓臣を加え合計11名であった。 11時30分、深澤前支部事務局長が出席者を紹介し開会を宣言。 竹村前支部幹事長が議長となって議題に入った。 議事の進行と議案説明は福與が担当し以下の通り中信支部の新役員と第9回総会開催の大枠が決定した。

【 支部新役員 】

役　職	氏名　（舎友番号）
顧　　問	小池　　章　（ 76）
会　　長	竹村　治恭　（140）
副 会 長	深澤　勝吉　（135）
幹 事 長	中村與志人　（191）
副幹事長	田村　裕昭　（264）
事務局長	杉本　研一　（254）
副事務局長	山越　晴彦　（251）
〃	滝澤　敏章　（274）
〃	岩原　　伸　（290）
幹　　事	古畑　大輔　（458）
〃	両角　旺大　（610）
〃	塚田　泰史　（625）
〃	中村　　翼　（647）

中信支部総会 会議風景

中信支部総会参加者 11名

【 第9回総会・懇親会 】

《開催日時》 令和7年（2025年）9月6日（土曜日）　12時00分～15時30分

《開催会場》 アルピコプラザホテル（松本市深志1-3-21）を第一候補として仮予約済。

《参加人数》 55名～60名を予定。

《参 加　費》 9,000円/1人（過去の総会開催実績及び諸物価高騰を考慮）

《会場費用》 7,000円/1人（料理・飲み放題・テーブル席・バイキング方式）。

《記念イベント》 マジックショーを深澤副会長が知人のマジシャンに交渉する。《実行委員会》 総会の実行委員会は上記支部役員をもって構成する。

《スケジュール》 令和7年度支部役員の新年会　：　役員間の親睦を深めるとともに総会に向けた準備を進めるため2月1日(土)に実施する。

第9回総会開催案内状の発送　：　令和7年5月中旬、会報第16号及び年会費徴収用紙に同封し発送（東京本部事務局が担当）。

第9回総会開催最終準備会合　：　令和7年8月30日（土）総会開催会場にて当日の役割分担、会場との打ち合わせ等決定。

《当日準備品》 受付・参加費徴収簿、参加者用名札、総会資料、会報「武蔵野」第17号等は全て東京本部事務局が準備し当日持参する。

以上、総会が無事終了し、全員で記念写真を撮った後、昼食懇親会が始まった。 まず、中村與志人新幹事長より開宴挨拶があり、竹村治恭新会長より、これまでの中信支部の活動の経緯説明の後、今回集まっていただいた新役員の皆さんと共に中信支部の活性化、寮運営の後方支援と第9回総会の成功に向けて頑張っていきたいとの挨拶があった。 最長老の小池章顧問による挨拶と乾杯の音頭で昼食会が始まった。 支部の会合に初めて参加した山越晴彦さん、滝澤敏章さんと両角旺大さんの3名も瞬く間に皆さんと打ち解けて会話が弾んでいたのも、世代は違えども信陽舎という同じ釜の飯を食べ同じ屋根の下での共同生活という経験を味わった者だけが分かる暗黙の同志感ではないだろうか。 今回の総会を新事務局長として企画し準備してくれた杉本研一さん（ご本人は直前に胃腸の手術を受けられたため欠席せざるを得なかった）のご尽力のお陰と感謝申し上げたい。　（福與記）

2025年 中信支部新年会　令和7年2月1日(土)正午～14時30分　会場 ： 松本市・割烹「じぶんどき 松本駅前店」

舎友会中信支部は令和7年2月1日、第9回舎友会総会の松本開催に向けた準備と支部役員の親睦を深めるために新年会を開催した。 出席者は、竹村治恭支部会長、深澤勝吉副会長、杉本研一事務局長、山越晴彦副事務局長、田村裕昭副幹事長、滝澤敏章副事務局長に東京本部事務局から参加の福與卓臣を加えた7名であった。

杉本支部事務局長の司会で始まり、竹村支部会長から年末に小池章顧問がお亡くなりになった旨の報告と第9回総会を成功させるために役員の皆様のご協力をお願いしたいとの挨拶があった後、福與より第9回総会開催に向けての今後のスケジュールや段取りについて長野で開催された第7回総会を参考にしながら説明を行い、今後のスケジュールとして、5月に支部役員会を開催会場のアルピコプラザホテルで行い概要を決定、最終打合せ会合は8月30日（土）に同会場にて開催し詳細を決定することになった。

12時20分、深澤支部副会長より小池章顧問の御霊に献杯を捧げたいとの提案で全員で献杯し小池章様のご冥福を祈った。

今回出席の杉本さん、山越さん、田村さん、滝澤さんの4名は1973年から1977年の入寮で同じ時期に寮生活を送った仲ということで互いに気心が知れていて話が弾んでいた。 今後支部の中心として積極的に活躍してくれると思われ頼もしく感じ、竹村会長、深澤副会長ともども一安心した次第。

田村裕昭さんは、寮で同期だった佐藤正之さん（長野在住）や宮澤清さん（安曇野在住）などに声をかけ、9月の総会への出席の約束を取り付けたとの嬉しい報告もあった。 大変盛り上がった新年会もあっという間に終宴となり、心地よい気分で特急あずさの人となって帰宅の途に就いた。　（福與記）

田村裕昭・福與卓臣・竹村治恭・杉本研一・山越晴彦・深澤勝吉・滝澤敏章

舎友便り

訃報
ご冥福を！
物故者 73名
（武蔵境寮以降）

❁ 小池　　章さん（舎友No.76 旧姓：吉川、在寮期間1960～1964、） 令和6年12月21日ご逝去、84歳。令和7年1月に奥様並びにご子息様より寒中お見舞いとして「昨年12月21日に他界し、喪服中のため年末年始の御挨拶は差し控えさせていただきました。 ご通知が遅れましたことお詫び申し上げます」とのご連絡をいただきました。 小池章様は、昨年10月19日松本で開催の舎友会中信支部総会にて顧問に就任されたばかりでした。 小池章様のご冥福を心からお祈り申し上げます。 （福與記）

新年の挨拶（年賀状・電子メール・Line等）及び喪中の挨拶による便り

（注：謹賀新年、賀正等の冒頭の新年挨拶文句は省略させていただきました）

長谷川廣子（ M2、名誉会員）： 旧年中は何かとお世話になりありがとうございました。 今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

塚田　浩一（ S1、特別会員）： 泰史(ご子息)は仕事は大変ながらも楽しい日々を過ごしております。 いつもお声掛けを頂いて有難うございます。

榊原　雅直（ S3、特別会員）： 今年は是非松本の総会に出席させて頂きたいと思います。 9月の休日の予定全て空けておきたいと思います。

宮川　章義（ 14、1956年）： お変わりございませんか、信陽舎をよろしくお願いします。 小生昨秋高齢者叙勲を拝受しました。

古島　史雄（ 47、1959年）： 先輩諸兄のご長寿にあやかり、お陰様で私も7回目の年男にたどり着けました。 あと6年程の平均余命とのこと、この間精々頑張って健康にと願っています。 食事制限のため会食は難しいですが、個別選択のできる形なら皆さんにお会いしたいですね。

北原東亜夫（ 55、1960年）： 娘が昨年11月に急死し、それ以来、仙人生活を送っています。 俗世界に戻ったらよろしくお願いします。

久保田光昭（ 58、1960年）： 旧年中は大変お世話になり心よりお礼申し上げます。 本年もどうぞよろしくお願いいたします。

林　　史典（ 67、1960年）： 平松君(入寮決定)の入寮、喜ばしいですね。 ICU、学芸大など通学の負担の少ない大学の入学者が入寮してくれることは、これからの信陽舎のありかたを考える上で嬉しく思います。 清水君(寮生)のタイ留学の様子、拝見しました。 このような良い経験を積んだ寮生が、後輩たちの夢を広げてくれたら素晴らしいですね。 いつもいつも本当にありがとうございます。

小池　　章（ 76、1960年）： 昨年中は大変お世話になり有難うございました。 今年は総会の松本開催をよろしくお願いいたします。

嶋岡　洋平（ 78、1960年）： 健康第一、リハビリのデイサービスに行き始めました。

北原　靖久（ 81、1961年）： 喪中につき新年のご挨拶をご遠慮申し上げます。 弟 北原正彬が10月7日に81歳で永眠いたしました。

神波　　潔（ 85、1961年）： ルーツを訪ねて、東大阪市東石切町（旧 神並（こうなみ）村）にある石切劔箭神社を訪ねました。 尚、賀状はこれにて卒業したくご挨拶申し上げます。

牧内　良平（ 91、1961年）： 喪中につき年頭のご挨拶を差し控えさせていただきます。 義姉と姪が相次いで永眠いたしました。

中田　　篤（ 96、1962年）： 今年も皆様にとりまして良い年でありますようこころよりお祈りいたします。

坂　　好章（ 99、1962年）： ご一同様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。 持病の腰痛と家内の入院やらで悩んでおります。

中田　　茂（102、1962年）： 皆様のご多幸をお祈りいたします。 本年も宜しくお願いいたします。

上松三治彦（108、1963年）： 窓の外の「割蜜柑」に目白が毎日やってきます。 春三月、花が咲き始めるまでやって来るでしょう。 杉並を離れて小鳥たちとは「お別れ」かと思っておりましたが、この家の傍にある「池袋の森」は小鳥の王国です。 それでいて池袋駅まで788歩、銭湯まで400歩、酒屋も400歩です。 問題は「運動不足」かも知れません。 皆さんよいお年を！

池神　利勝（109、1963年）： 昨年は、養母（享年104歳）に続き義姉（103歳）長姉（100歳）次姉（93歳）が他界、母は18年前に107歳、兄は一昨年に103歳で他界とお陰様で皆健康長寿（ヤクルト流では健腸長寿）を全うしての他界でした。 長寿はともかく健康でありたいものです。 貴殿はじめ三八会(昭和38年入寮組)の皆さん、舎友各位には何かとご迷惑をお掛けし反省しております。

片桐　勝臣（110、1963年）： 加齢に伴う体力の衰えや物忘れの進行をできるだけ遅らせたいと思うこの頃です。

五嶋　　昭（112、1963年）： 心身の老化が進んだ気がしますが、出来る限り散歩を心がけています。 皆様くれぐれもお身体を大切にしてください。

小平　国俊（113、1963年）： 昨年は舎友会でお世話になりました。 今度は県内では来年(今年の松本開催)ですか？ 楽しみにしています。

深澤　克巳（115、1963年）： 喪中につき新年のご挨拶をご遠慮申し上げます。 妻 深澤暖子が1月30日に78歳で永眠いたしました。

福田　璋夫（116、1963年）： 時間の進み方が変わりました。 以前より速くなった様な気がしています。

土屋　雅敬（129、1964年）： 喪中につき年末年始のご挨拶を失礼させていただきます。 本年7月義母宮田ことが102歳にて永眠いたしました。

深澤　勝吉（135、1965年）： いつもいつも本当に有難うございます。 (9月の総会)に向けて頑張りたいと思いますのでご指導宜しくお願いします。

竹村　治恭（140、1965年）： 昨年は大変お世話になりました。 今年もよろしくお願いいたします。

浜　太美治（143、1965年）： 昨年10月に妻が78歳で他界しました。 ･･･6年間の闘病でした。 今思うことは、結婚生活の51年間に私が妻にしてやれることはもっと沢山あったということです。 妻の想いを深く捉えずに、言うことを軽く受け流すケースが多かったと思い、悔やまれます。『あの世とは 作り話と知りながら 行ってもみたい 妻が待つなら』。 年末に前立腺の癌が見つかり、私は放射線治療を希望しています。 年が明けてからコロナに感染していることがわかり、ここ数日寝込んでいます。 お元気でご活躍をお祈り申し上げます。

原　　錬造（144、1965年）： 昨年は信陽舎の舎友会総会ではお世話になりました。 これからも体の続く限り出席させていただきます。

生嶋　正和（146、1965年）： 輝かしい年頭にあたり皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。 本年もどうぞよろしくお願いいたします。

伊原江太郎（147、1966年）： 今年のカマキリは、木の枝の上部に巣を作っているのを見ますが、昔からその様な年は大雪になると伝えられています。そうなると、今冬は線状降雪帯らしき現象が現れ、普段の暮らしが思いやられます。 どうか雪にはくれぐれも気を付けてお過ごしください。

葛岡　龍夫（151、1966年）： 喪中につき年末年始のご挨拶をご遠慮申し上げます。 本年8月 妻葛岡文子 儀永眠いたしました。

鈴木　昭夫（154、1966年）： 能登の復興を応援します。 昨年、能登半島地震の被災状況の調査を実施し、その調査の本が1月下旬に出版されますのでお送りいたします。 ≪ 編集者注：本会報12頁に紹介記事を掲載中につきご参照ください ≫

仲田　哲夫（155、1966年）： 本年もどうぞよろしくお願いします。 皆様のご多幸を祈念いたします。

舎友便り

牧野　憲治（157、1966年）：　若き日々はともかく、現在時点は余りに謙譲に過ぎ、いまだぎらぎらとした行動力、判断力は余人には太刀打ちできません。 何があっても不思議でない不安定な世界、頑張ってください。今後ともよろしくお願いします。

松山　順治（158、1966年）：　昨年はめまいに悩まされ コロナ感染症にも罹り、加齢の加速を感じましたが、念願の富士山に登頂、沖縄・九州等への旅行もでき恵まれた年であったと思います。 おかげさまで妻ともども元気に暮らしております。 今年2月に我が家の近くにある「酪農学園大学」を舞台にしたドラマ「リラの花咲くけものみち」がNHKでTV放映されますので観ていただければ幸いです（賀状より）。
自分たちは歳をとるいっぽうですが、時代はどんどん変化してゆきますね！！ 流れに棹をささないように、ストレスをためず、笑いで乗り切って行こうと思います。 今年もよろしくお願いします（LINEより）。

金田　憲治（164、1967年）：　今年も信陽舎会（舎友会総会）に出席したいです。 あの一時は本当に楽しいです。

北原　康夫（165、1967年）：　昨年の信陽舎（舎友会）総会では大変お世話になりありがとうございました。 （尺八の演奏を）皆さん静かに聴いていただき感激いたしました。 演奏の機会を与えていただき感謝いたしております。

櫻井　康夫（166、1967年）：　2025年は結婚後50年（金婚式）、阪神淡路大震災から30年の節目の年になります。 光陰矢の如しと言いますが、まさにアッという間の歳月でした。 幸運なことに夫婦二人とも健康で高齢者になったことを忘れています。 昨夏、ノンフィクション小説『ローランギャロスの侍』を出版しました。 思いのほか評判が良く、Amazon・楽天等のネット販売でも好調です。 国会図書館のほか、大学では筑波大、早大、日体大等、市立図書館は伊丹市、飯田市、横浜市などの蔵書となりました。 ところで本の中で寮生活の個所がありますが、「月夜の雨」が何の事かわからないようですが、「2階の窓から小水をした」とは、とても書けませんでした。 今は昔の物語です。 本年の皆様のご多幸・ご活躍をお祈りいたします。

浅沼　弘愛（172、1968年）：　故郷の山に向いて言うことなし浅間山。 Royal troon にて2024年全英オープン観戦。 念願のサニングデールでゴルフプレーが実現。 ガーデン・アドバイザーを継続して2年目。

久保田信行（174、1968年）：　信陽舎に関しては個人的な事情により何の役にも立たず誠に申し訳なく思います。 昨年後期高齢者の仲間入りをし、体の動きも鈍く感じるようになりました。 唯一継続している男声合唱団と日本オペラ「北里柴三郎物語」と「杉原千畝物語」のわき役として今年も頑張りたいと思っております。

五島　久揮（176、1968年）：　喪中につき年末年始のご挨拶をご遠慮申し上げます。 今年8月義姉 あや子が81歳で永眠いたしました。
（12月13日飯田でのOB会の）写真をありがとうございました。 全員が70歳過ぎのおじいさんとは思えませんね！ さすが信陽舎の仲間です。
私の体調は回復したので来年の松本（での舎友会総会）を楽しみにしています（年末のLINEより）。

深津　　徹（184、1968年）：　（年末の飯田での同期会の）写真をありがとうございました。 出席者全員が信陽舎での青春が人生の大きな糧になっているのだなと嬉しくなりました！ 先日話さなかったのですが、私は秋の叙勲で自治功労者として旭日双光章を受けました。 3月8日に授賞式典の予定です。

中村　克己（190、1969年）：　早々の素晴らしい賀状を有難うございました。 小生も賀状の作成が頭にありましたが、年末に新しい施術のレーザーによる腫瘍除去手術を試みましたが、思いもせず副作用で急性胆管炎症になり、さらに複雑な状態になって3回の入院、手術を余儀なくされました。 そんなわけで、年賀状の作成もできないまま新年を迎えました。 1年間に5回の入院手術をしたのは人生初めての経験でした。 今月（1月）も20日から再入院の予定で、何とか少しでも前進できることを祈っています。 毎週のように貴殿から送られてくる運営報告によって信陽舎が順調に運営されている様子を拝見して嬉しく思います。 私も期待に沿えない状況にはなりましたが、今後も一人のOBとして、信陽舎の継続、発展を見つめていきたいと思います。 有難うございました。

前澤　孝一（193、1969年）：　ご無沙汰しております。 お変わりございませんか。

水上　勝秀（195、1969年）：　（12月13日の飯田でのOB会に）参加できなくて残念でした。 皆さん楽しそうで本当に良かったですね。 また そんな機会がありましたら是非参加させていただきます。 いろいろとご苦労様でした。 アルバム楽しく見させていただきました。

今村　行人（200、1970年）：　新年明けましておめでとうございます。（座光寺麻績神社除夜竹宵の写真を添えたLINE電子賀状）

田尻　　実（207、1970年）：　幸多き一年になりますよう心よりお祈り申し上げます。 本年もどうぞよろしくお願いいたします。

岩原　　晃（214、1971年）：　昨年は、「公務員としての仕事 質・量」も、「母親の自宅介護 質・量」も要求されるものが大きく大変でした。 自分の人生の引き出しにある「すべての力量」を出し切っても、次々と新たなことを要求されるような忙しい展開でした。 かつては、「人生双六のゴールを80歳位に設定」しておりましたが、時の流れが速すぎるため、アメリカの次期トランプ大統領に頼み「人生双六のゴールを100歳にリセット」してもらいました。 仕事をあと8年間頑張り、人生はあと28年間頑張るイメージで取り組んで参ります。 暑い夏は苦手ですが、今年は歴史上最高の地球気温になるようですし、大国の挙動と世界情勢が特段に気がかりです。「大切な地球」をしっかり未来に届けられるよう心に刻み、日々を頑張って参りたいと思うばかりです。 信陽舎のジェンダーフリーをご期待しております。

寺島裕一郎（217、1971年）：　先月（年末12月の飯田）は遠路はるばるお疲れさまでした。 今年の総会・懇親会も楽しみにしております。

原　　誠（220、1971年）：　祝・昭和100年。 小生は6回目の年男です。 このめでたい年に金運の象徴であるヘビにあやかり、宝くじで大当たりすることでしょう。 旧年中は学生時代の旧友と44年ぶりに再会し、旧交を温めるなど思い出深い出来事が多々ありました。 新年も東京都自動車会議所勤務とフリーライターの二足のわらじで元気に飛び回り、新たな出会いと感動を得たいと思います。

山口　章裕（222、1971年）：　飲めるうち、歌えるうち、歩けるうち、ですね！ カラオケを含めて今年も宜しくご指導の程お願いいたします。

杉本　研一（254、1974年）：　9月の（松本開催の）総会に向け、引き続きよろしくご指導ください。

田村　裕昭（264、1976年）：　喪中につき年末年始のご挨拶をご遠慮申し上げます。 みなさまに良い年が訪れますようお祈りいたします。

福澤　秀志（266、1976年）：　拝啓　皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。 さて、私こと（昨年）6月27日付けをもちまして東邦アセチレン株式会社を退職致しました。　これまで多くの皆さまや家族の支えにより大過なく勤務できましたことに深く感謝申し上げます。

舎友便り

青柳　淳英（280、1978年）：　旧年中はおかげさまで大過なく過ごすことができました。 夏場は草刈りのため、二週に一度は塩尻洗馬へ足を運ぶ日々が続きました。 近年、気候変動が年々厳しく今年からは真夏のゴルフは控え、体調管理に留意していくつもりでおります。 今年も昨年と変わらぬ仕事中心の日々が続いていくと思われますが、初心を忘れず頑張って行きたいと気持ちを新たにしております。

岩原　　伸（290、1980年）：　親子でお世話になっております。（現在は教員の）再任用で現役と同様にやっています。（中信支部役員として）たいしてお役に立てませんが、お手伝いさせていただきますので宜しくお願いします。

池野　兼浩（298、1981年）：　（信陽舎の）常務理事及び舎友会役員（副会長）として微力ながら携わっていきたいと思っております。

髙野　雅彦（302、1981年）：　皆々様のご健康とご多幸をお祈りいたします。 なお本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

仁科　圭右（306、1982年）：　電子年賀状有難うございます。 本年は松本開催ですか、都合が会えばと考えます。 いろいろご苦労が多いと存じますが信陽舎は御立派ですね。

吉村　信二（309、1982年）：　服喪中につき新年のご挨拶を失礼させていただきます。 本年、5月に母 吉村悦子（90歳）、10月に祖母 熊谷芳子（102歳）が永眠いたしました。

松井　一光（336、1986年）：　今年も皆様にとりまして良い年でありますよう心よりお祈りいたします。

坪木　　崇（408、1996年）：　電子年賀状をありがとうございます。 今年もよろしくお願い申し上げます。

田中　淳一（470、2001年）：　昨年は大変お世話になりました。 本年もよろしくお願いいたします。

下岡　祥平（524、2006年）：　昨年は大変お世話になりました。 本年もご指導を宜しくお願いします。

立野　　稜（564、2010年）：　信陽舎を2014年3月に卒寮した立野です。 現在は、長野市に本社があるIT企業の人事部で働いております。 今後の信陽舎の活動等にも参加できればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

岩原　　優（580、2012年）：　2024年は大変お世話になりました。 2025年も理事として尽力できるよういたしますのでよろしくお願いいたします。

髙野　凌輔（583、2012年）：　本年は個人的には住宅建設の予定があり人生の転機の年となりそうです。 勤務についても土日関係ない部署となり大変な毎日ですが、本年の松本での舎友会総会については休みが取得可能であれば参加したいと思います。

山崎　達也（584、2012年）：　昨年は大変お世話になりました。 本年もご指導を宜しくお願いします。

後田健太郎（593、2013年）：　本年もよろしくお願い申し上げます。 飯田での弁護士生活2年目を迎えます。 本年も1件1件の仕事に全力投球で参りたいと思います（賀状より）。 年賀状が新しい形で面白かったです。 今年もよろしくお願いいたします（LINEより）。

松澤　直紀（596、2013年）：　ご挨拶が遅くなってしまい恐縮です。 今年も何卒よろしくお願いいたします。

御子柴優樹（597、2013年）：　（今年の舎友会総会は）松本開催ということですので前向きに検討させていただきます！！

神藤　駿介（606、2015年）：　私事ですが、2024年12月12日に子（長男）が産まれ、妻と子と賑やかに過しております。 福與さんはじめ信陽舎でお世話になった皆さんとまたお会いできるのを楽しみにしております。

両角　旺大（610、2016年）：　昨年は（舎友会）中信支部会では卒寮以来ぶりにお会いすることができ、学生時代を思い出す有意義な時間となりました。 2月の（中信支部の）新年会は外せない私用があり欠席させて頂きますが、今年も引き続きよろしくお願いいたします。

宮嵜　健太（615、2016年）：　昨年は舎友会で久しぶりにお酒をご一緒させていただき、お元気な姿を拝見できてとても嬉しかったです。 今年もまたどこかでご一緒できたら大変嬉しいです。 寮運営も厳しさを増す昨今かと存じますが、くれぐれもお体に気を付けてお過ごしください。

伊東　　丈（616、2016年）：　ご挨拶が遅れましたが、お便りありがとうございました。 今年もよろしくお願いいたします。

平林　海斗（620、2017年）：　今年は舎友会総会に参加できればと思っております。 今年も一年、お身体に気を付けてお過ごしください。

竹内　亮人（623、2017年）：　新年のご挨拶ありがとうございます。 今年もよろしくお願いいたします。

山本　裕斗（624、2017年）：　仕事のために（第8回総会に）出られませんでしたが、いたって健康に働いております。

塚田　泰史（625、2017年）：　明けましておめでとうございます。 今年もよろしくお願いいたします。 お体に気を付けてお過ごしください。

權田敬太朗（627、2017年）：　私は仕事で忙しい毎日を過ごしております。 お体に気を付けてお過ごしください。 本年もよろしくお願いいたします。

小林　尚登（633、2018年）：　仕事の方は忙しくしてますが元気にやっています。 今年は舎友会などあれば父と一緒に参加したいと思います。

折山　達野（634、2018年）：　明けましておめでとうございます。 どうぞお体に気を付けてお過ごしください。

西脇　土歩（635、2018年）：　明けましておめでとうございます。 寒い日が続きますがくれぐれもご自愛ください。

坂口　大成（636、2018年）：　私が寮を出てからもう3年が経とうとしていることに驚きが隠せません。 今年で81歳になられるのですね。 まだまだお元気でいらっしゃることが嬉しいです。 最近美術館には行かれていますか？ 私はポスター芸術が好きで、ミュシャやロートレックの展示会によく行く一年でした。 インフルエンザとコロナウィルスの両方が流行っていますので、どうかご自愛ください。

土本　涼也（641、2019年）：　ご報告が遅れましたが、私は今、建設業界専門の新聞社で働いております。 今後ともよろしくお願いいたします。

市澤　文太（646、2020年）：　明けましておめでとうございます。 今年もよろしくお願いいたします。

中村　　翼（647、2020年）：　今年もよろしくお願いいたします。 寮生活で培ったことが活きた一年でした。 くれぐれもお身体に気を付けてください。

藤原　　改（648、2021年）：　心のこもった年賀状をいただき恐縮です。 ありがとうございました。 いただいた教えを胸に、日々邁進してまいります。 いつかまた、私の音楽に触れていただける日が来ますことを願っております。 LINEにて恐縮ですが、新年のご挨拶とさせていただきます。

櫻井　陽向（652、2021年）：　今年も信陽舎の運営に携わる皆様と、後輩たちが健やかに過されますようお祈りしております。 またお会いできることを楽しみにしています。

平出　拓也（657、2022年）：　昨年は大変お世話になりました。 ご連絡いただき有難うございます。 本年もどうぞよろしくお願いいたします。

穂川　輝多（659、2022年）：　2024年2月23日をもって退寮した穂川ですが、2年間様々な迷惑をおかけしました。 東京に行く際には寮に顔を出したいと思います。 2年間本当にありがとうございました。 新しい進路に向って気合を入れて頑張ります！

永原　拓実（665、2022年）：　昨年は寮祭に呼んでいただきありがとうございました！ 今年も楽しみにしておりますので宜しくお願いいたします。

鈴木　智晴（673、2023年）：　明けましておめでとうございます。 本年もどうぞよろしくお願いいたします。

舎友便り

寮生及び保護者からの新年の挨拶

佐藤　　勉（661、2022年、大地君の保護者）：　いつも大地がお世話になりありがとうございます。 大学生活も残すところ一年あまりとなりました。 今年もご指導よろしくお願いいたします。

小山　聖子（662、2022年、うぃる君の保護者）：　入寮させていただいてから、うぃるが大きく成長したと感じています。 皆さまのおかげと感謝しています。 これからもよろしくお願いいたします。

田畑　　篤（669、2023年、尚大君の保護者）：　尚大が大変お世話になっております。 大学時代、信陽舎で過ごす日々が、大人になってから心の宝になると思います。 卒業までどうかよろしくお願いいたします。

清水　陽太（677、2023年）：　残すところ6ヶ月の留学生活を心残りなく全力で頑張ります。 本年2025年もどうぞよろしくお願いいたします。

後藤　伸一（679、2024年、亮太君の保護者）：　旧年中は息子・亮太が大変お世話になり誠に有難うございました。 本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

駒井　　創（680、2024年）：　昨年中は大変お世話になりました。 私の今年の目標は健康でいることです。 福與さんも健康でいらっしゃることを願っています。 今年もよろしくお願いします。

宮坂　栄二（683、2024年、佳樹君の保護者）：　信陽舎春秋館でお世話になっております宮坂佳樹の保護者です。 昨年は大変お世話になりました。 お陰さまで佳樹はオン・オフ問わず、充実かつ楽しい寮生活を送らせていただいております。 本年もご指導の程よろしくお願いいたします。

転居通知　山崎　達也（584、2012年）：　年始（2025年）早々に異動があり、横浜市青葉区に転居しました。

1968年～1972年入寮組 飯田OB会

2024年12月13日（金）18時～20時　　会場 ： 飯田駅前居酒屋『縁』

1968～1972年入寮の飯田市周辺在住者を中心とする信陽舎OB会が去る2024年12月13日に飯田市松尾町の居酒屋「縁」で盛大に開かれました。 その3カ月前の９月７日に東京・新宿の「新宿サンパーク本館」で舎友会総会・懇親会が開かれたばかりなのにどうして? と思われる人もいるかと思われますが、実はその総会・懇親会の場で、寺島裕一郎氏(舎友№217)、山口章裕氏(222)、原誠(220)の1971年入寮組3人が唐突に飯田開催を思いついたのがきっかけです。「飯田の連中はどうしているんだろう」「この際、飯田でOB会をやろうよ」「いいね、飯田でやればきっとみんな集まるよ」というわけで、飯田在住者で70年入寮の今村行人氏(200)に相談することにしました。 今村氏は2023年に長野市で開かれた舎友会総会・懇親会に参加し、この４人で4次会まで飲み明かした仲です。 今村氏は二つ返事で幹事を引き受けてくれ、4人の日程調整で開催日が決まると、電話とメールとLINEとSMSで70年、71年入寮の飯田近辺在住者を中心に連絡。 長野市在住の寺島氏と東京都在住の山口氏、埼玉県在住の原も飯田市内のホテルを予約しました。 時を待たずに70年、71年入寮組の出席者がほぼ固まった段階で、せっかくならと7年前の2017年10月に長野県松川町の「清流苑」でOB会を開催した時と同じ年次である1968年入寮組から1972年入寮組まで対象者を上下に広げることにしました。 ただし、急なことなので今回は飯田市周辺在住者に限って声をかけることにしました。

原 明・山口章裕・寺島裕一郎・唐澤 聖・菅沼律雄

案内状なしの伝言だけで総勢17人が参加を表明。 開催日近くになり、1968年入寮の五島久揮氏(176)、69年入寮の水上勝秀氏(195)、72年入寮の牧内康行氏(238)の3人が急用や急病で残念ながら出席を取り消すことに。

その一方、公益財団法人信陽舎理事長の福與卓臣氏(117)が実家にまつわる用件でたまたま同時期に訪飯する予定だったことから飛び入り参加することになり、結局15人と、ちょうど会場となる居酒屋の座敷にぴったり収まる人数で、カウンター席まではみ出すことなく挙行することができました。

中島智志・福與卓臣・深津 徹・原 誠・今村行人

福與氏の乾杯の挨拶でOB会をスタート。 喉を潤した後、テーブルの端の人から順に、信陽舎時代の思い出話や近況についてスピーチしました。 1968年入寮の深津徹氏(184)が奥さまとは寮祭で知り合ったのが馴れ初めと明かすなど、それぞれの青春に信陽舎が多かれ少なかれ影を落としていることを改めて認識させられました。 半面、福與氏をはじめ、2～3年で退寮した人が圧倒的に多く、在学期間を信陽舎で全うした人は少数派というのは意外でした。

今村與志昭・岩原 晃・森山幹夫・三浦 勝・牧内邦弘

２次会はカラオケで盛り上がり、3次会まで残ったのは福與氏　、今村行人氏、71年入寮の岩原晃氏(214)、それに原誠の4人のみ。 御年80歳の福與氏は日付が変わる直前まで若々しい声を朗々と張り上げて、十八番のさだまさしなどを歌い続けていました。

(文責・原　誠)

舎友ルーツ余話　飯田の豪商 ”若松屋・林家” と川路村の素封家 ”関島両家” ①

舎友会会長・林　史典さん（舎友No. 67）と 第13代金座長官・後藤三右衛門（光亨）

江戸幕府後期、天保改革を行った老中・水野忠邦の三羽烏の一人といわれた御金改役（金座長官＝現在の日銀総裁）**後藤三右衛門**（光亨）は、幼名を**林 奥輔**といい信州・飯田の豪商「**若松屋・林家**」の三男で、20歳のとき江戸の御金改役・後藤家に入婿（長女・春子）し、第13代後藤三右衛門光亨（みつみち）となった。 **後藤三右衛門**（林 奥輔）の長兄が**林 弥七言行**（久太郎）で若松屋・林家の当主（本家）であり、その当主・林弥七言行から数えて第7代目が舎友会会長・**林 史典**さんである。

御金改役（第13代金座長官）後藤三右衛門の名誉回復のために

当時、幕府財政が窮迫していたために、倹約と贅沢を諫（いさ）めるため、天保改革を行い「法令雨下」のごとく厳しく取り締まった。 この天保改革を断行したのが当時の執政者・老中の水野忠邦で、その手足となって実行したのが、大目付・鳥居耀蔵（ようぞう）と天文方見習・渋川六蔵であった。

当時、水野忠邦の三羽烏と言われたのが、その鳥居と渋川、それに**御金改役**の**後藤三右衛門**であったことから、後々、悪評高い天保改革の推進者の一人として後藤三右衛門も悪役とされ、水野の失脚とともに、それに連座したとして贈収賄の罪で斬首された（1845年11月2日49歳）。

しかし、後藤三右衛門が水野忠邦老中に宛てた建白書を見れば、決して後藤がこの悪政に加担したわけではないことは明白である。 後藤三右衛門の名誉のために、若松屋・林家の第5代目で林 史典さんの祖父の林　栄著『後藤三右衛門』の中から、後藤三右衛門の ”**座右の銘**” と当代偉人による ”**後藤三右衛門評**”、それに老中・水野忠邦に宛てた ”**建白書**” の抜粋を紹介したい。

《後藤三右衛門座右の銘》「人の短をいう勿れ、己の長を説く勿れ、人に施すに慎んで授施を思う勿れ、世誉（せいよ）の不足を忌む勿れ、ただ仁を慕い紀綱（きこう）となす。 隠心（いんしん）にして後動かば謗議（ぼうぎ）何ぞ、いずくんぞ傷（いた）まん。」（後漢時代の崔子玉（さいしぎょく）座右銘の冒頭の言葉）

《後藤三右衛門評》「その識度非凡、士大夫（したいふ）をして慙愧（ざんき）せしめるに足る」《勝海舟》

「後藤は商人ながらも博弁宏辞（はくべんこうじ）、実に人を動かすに足るものがある」《徳富蘇峰》

《老中・水野忠邦に宛てた後藤三右衛門の建白書抜粋》

「年来の幣風を一時に御改革なさる御思召（おぼしめし）なれば、旧来の習慣に染まった民は、尽（ことごと）く奇異の思いをいたし人情にそむきましょう。 恐れながら、幕府、大奥などの御華美を先に御改めになれば、それにて御費用の方は、余程はぶけるではないでしょうか。 一概に下々の御世話がすぎますと、人気にかかわり、却って、人々が心腹いたしかねます。 時節柄のことですから、諸役人が、その虚に乗じて所々に入り込んで取調べで、罪人を作り 手柄とします。 恐れながら、これら役人の申すことは、容易に御用いにならぬ方がよいと存じます。 これら下々に倹約をしいても、浜松（水野）公の御為にはならぬ上に、公儀の御為には尚なりません。」

「旦那のためなれば自分は何程悪評をうけても構わぬ、と申す者が世間には間々ありますが、これは大なる心得違いであります。 たとえ商法の家で、手代が悪評をうける程なれば、その主人もろとも怨をうけます。 これ実は手代の不忠であります。 かつその悪評は変じて禍（わざわい）となるもので、慎まねばなりません。 当今の執政家は、この理をわきまえて、御政務をとって戴きたいものであります。」「諺（ことわざ）に『囲碁の術は本人は迷い、傍観する者には分る』と申します。」「公（水野）の英才に、さらに寛容と恕察（じょさつ）の二条を御差加えになりましたら、国内済世（さいせい）の功なり、中興の英主となりましょう」「いま以て密告の徒（と）を盛んに使い、角の角まで手を御入れになりますので、諸人は心配に堪えません。 重箱の内の味噌は杓子（しゃくし）をもって掬（すく）うべし。 必ず楊枝（ようじ）を用ゆべからずと申します。 この意味をとくと御わかり下さって、御処置になれば、世のそしりも少なくなるでありましょう」「天に代わって国を治め給う執政家は、即ち天使なり。 天の使なれば、天の意にかなうよう、御仁徳をもって士民をいつくしみ給い、小鮮（小魚）を煮る如く、寛大の意がなければ、天下の士民は皆塗炭（とたん）の苦にたえず。」「そっとせよ！ 人の心と井戸の水。 かきまわしては、すべて泥水」「当世は隠密（おんみつ）あまた立廻り、まず人の不善のみを詮索し、その善をば覆（おお）いかくして聖人の教えに反し　・・・（略）・・・　およそ人々は若い頃から四、五十歳にいたるまでのことを洗濯すれば、無疵（むきず）のものはありません。 十人のうち九人までは完全なるものは稀でありましょう。 貴き人もいやしき人も、恐怖この上もありません。 不幸これより大なるは無いと思います。」

林家（若松屋）と 関島両家（大上・百華園）の強い姻戚関係

飯田の豪商 ”**若松屋・林家**” と川路村の素封家 ”**大上・関島家**” とは強い姻戚関係にあった。 若松屋・林家の**長男・林久太郎**（弥七言行）に嫁いだのが大上・関島家の**長女・きく**で、林家の**次男・林金三郎**に嫁いだのが大上・関島家の**次女・千代**であり、関島家の姉妹が揃って林家兄弟の嫁になっている。 林家の三男・奥輔は前述のとおり金座（御金改役）後藤家に入婿して後藤三右衛門光亨となる。

川路村の素封家である関島家は、本家の屋号・**大上**（兄・関島新右衛門）と 分家の屋号・**百華園**（弟・関島良基・医者）で**関島両家**と呼ばれた。

本家の大上・関島家は、長男が**記一**（光広）、長女が**きく**、次女が**千代**、三女が**よし**で、三女のよしは分家の百華園の養子である退蔵に嫁いで百華園を継いでいる。 従って、大上・関島家の長男・**記一**（光広）は**後藤三右衛門の義兄**にあたる。

林　史典さん（舎友No.67）と 関島昌信さん（舎友No.64）は奇しくも信陽舎の同期生

関島家の分家・百華園の子孫が舎友の**関島昌信**さん（舎友No.64、兵庫県明石市在住、産婦人科医院）である。　関島昌信さんは、関島本家の三女 ”よし” と分家百貨園の養子 ”退蔵” 夫婦の子孫であり、**林 史典**さんは、関島本家の長女 ”きく” と若松屋林家の長男 ”弥七言行” 夫婦の子孫である。 すなわち、舎友・関島昌信さんと林史典さんは同じ血統であるとともに、両者は奇しくも1960年に信陽舎に入寮した同期で寮生活を共にしていたのである。

≪ 予告：舎友ルーツ余話 ”若松屋・林家” と ”関島両家” ② は次号　会報第17号に続く ≫

（文責：福與）

令和6年度 秋のスポーツ・ボーリング大会実施

令和6年10月6日（日） 午後2時～午後3時30分　於：大栄ボール（小金井市本町）

午後1時45分、会場である小金井市の大栄ボールに自転車で来る者、バスで来る者、電車で来る者など三々五々寮生たちが集まってきた。

午後2時、全員集まったところで、貸しシューズに履き替え4レーンに分かれ、先ず始球式ということで福與の第1投でゲームがスタート。 最初の第1フレームでは、溜まったストレス発散とばかりに力任せにボールを叩きつけるように投じるためガーターが続出していたが、5、6投目位からストライクやスペアも出始め、第2フレームでは力も抜けて良いスコアとなり、ガッツポーズやハイタッチで健闘をたたえ合う場面が多くなった。 嬉々として投擲に興じる姿からは普段の寮生活では見られない一面も見られて互いに新鮮な経験を味わったようだ。

午後3時30分、全員が2ゲームを完投したところでゲームは終了、幹事の佐藤大地君が清算を終え、打上げ夕食会の準備をしてくれている長谷川寮母さんの手伝いのため急いで寮に向かった。

午後4時40分、寮の食堂において打上げ夕食会が始まった。 幹事の佐藤前寮長から、全員怪我もなく楽しくボーリングができたことへの感謝と、打上げ夕食会の料理を準備して頂いた長谷川寮母さんに感謝したいと述べ、全員で「有難うございます！」と声を合わせて感謝した。 汗を流した後のビールやお酒の味は格別だ。 長谷川さんの心の籠った美味しい料理で一息ついたところで佐藤君から成績発表と表彰式があった。 参加者13名のうち半数の7名に賞品が出るということで、第7位から優勝者までの発表があった。 優勝者から第7位まで7個の賞品が用意されたが、どの賞品がもらえるかはくじ引きで決まる。 まずは番号札を引いて出た番号の賞品を貰うのだが紙袋に入っているため中身は分からず明けるまでのお楽しみ！ 賞品が7名全員に渡るまでは皆戦々恐々？ 全員に渡ってから一斉に中身を確認し無邪気に喜ぶ寮生たちの笑顔はあどけないほどの可愛さであった。 優勝者・髙橋諒多君の「”新寮長ということで勝たせてやった”との声もあるようですが、実力で勝たせていただいたのでお間違いないように」とのスピーチには大喝采であった。 長谷川寮母さんから特別賞としてケーキの差し入れをいただいたので、ビンゴゲームで当選者を決めることになったが、最初のビンゴ当選者が私（福與）になってしまったので、辞退して次の者に回した次第。

楽しい食事会もあっという間に午後8時を過ぎてしまったので、寮生全員の見送りの中、寮を後にした。 （福與記）

エネルギー発散とばかりにボーリングに興じる寮生たち

賞品もらって喜ぶ７位までの入賞者

『ウェルフェア・フェスティバル in 桜堤』に協力参加

令和6年11月2日（土） 春秋館

以前は「介護と福祉の地域祭」として桜堤ケアハウス単独で行っていた行事だが、昨年から近隣にある4つの福祉施設と合同で開催する「ウェルフェア・フェスティバル」として行うようになった。

寮生たちは、朝の8時頃から桜野小学校吹奏楽班の演奏会場となる玄関前ピロティの会場設営の手伝いをはじめ、信州りんごと野菜販売の準備を始めようとしたところ雨が降り出したので、急遽寮の玄関扉を開放して玄関内に販売用の屋台を設営した。

午前9時過ぎには、桜野小学校の吹奏楽班の子どもたちが楽器を抱えて集合、演奏を開始する9時30分には雨にもかかわらずケアハウスのお年寄りや近隣の住民、桜野小学校の子どもや保護者など昨年をはるかに超える大勢の人たちが集まってきて、玄関前ピロティはたちまち聴衆で一杯となった。 吹奏楽班の演奏はとても小学生の演奏とは思えないほど素晴らしく、一曲終わるたびに割れるような拍手が沸き起こった。 途中で軽快なKポップ音楽の演奏が始まると、集まっていた子供たちが演奏に合わせてリズムよく踊り出し、それにつられ周りの何人かの大人たちも一緒に踊り始め、たちまちノリノリのポップダンス会場のように盛り上がった。 寮生たちはインテリ学生とあってか、さすがに子どもたちと一緒に踊り出す者はおらず少々残念ではあった。

桜野小学校の吹奏楽班の演奏がフェスティバルの開始を告げる最初のイベントであった。 演奏が終わると、フェスティバルの実行委員長である桜堤ケアハウス・小松指導員の開会宣言があり、各施設のイベントがスタート。

春秋館では、信陽舎の信州りんごと新鮮野菜の販売、信州観光地図、観光パンフレットの無料配布、ケアハウスでは、肉まんとフランクフルトソーセージの販売、焼き菓子、駄菓子の販売等が始まった。 午前11時に販売開始した信州りんごは瞬く間に完売、野菜（ていね茄子、人参、ゴボウ）も昼過ぎには全て完売となった。 途中、小美濃武蔵野市長も来訪し、信州りんごと野菜の販売も視察していかれた。

このフェスティバルは5つの福祉施設をスタンプラリー形式で見学しながら地域で高齢者や障碍者などへの理解を深めるのが目的なので、駒井創君と宮坂佳樹君の2名は全施設を見て回ったようだ。 特に隣の老人ホーム「サンセール武蔵野」では、骨密度と血管年齢の測定をしていたので図ってもらい、帰りに美味しい豚汁をご馳走になったとのこと。 そこで、長谷川寮母さんと福與も測定してもらいに行ってきたところ、驚くべき結果が判明した。 なんと、寮生の駒井君と宮坂君の血管年齢は実年齢よりも12歳も老けた30歳、福與は実年齢よりも20歳も若い60歳であった。

驚くべきは長谷川寮母さんの血管年齢がなんと、実際よりも34歳も若い40歳とのこと、寮生の駒井君や宮坂君と10歳しか違わないとは驚異的！

『ウェルフェア・フェスティバル in 桜堤』に協力参加

令和6年11月2日（土） 春秋館

その結果を聞いた池野常務理事曰く、「自分はかかりつけの病院で測っているが実年齢より10歳以上老けた結果なのに長谷川さんの血管年齢は驚きだ！ 向こう30年はまだ働いてもらえるので安心だ！」

午後3時には、全て終了、寮生たちは後片付けを手伝った後、長谷川寮母さんが用意してくれたお好み焼きで慰労会を行った。 信州りんごと野菜の販売準備のため前日から泊りがけで上京してくれていた池野常務理事は午後3時30分の特急あずさで飯田に帰っていかれた。 年々にぎやかになるこのイベントは、お年寄りや近隣住民との関わりを深める貴重な体験の場でもあるので積極的にかかわる様にしていきたい。（福與記）

信州りんごと新鮮野菜の販売準備に精を出す寮生たち

桜野小学校の吹奏楽班による演奏会でフェアがスタート

ケアハウスのお年寄り、近隣住民などがぞくぞく集まってきた

Kポップの演奏に合わせてダンスを披露する子どもたち

寮生たちも素晴らしい演奏に拍手

信州りんごと新鮮野菜は好評で瞬く間に完売！

清水陽太君 1年間のタイ留学

明治大学政経学部2年生の清水陽太君が昨年夏より1年間タイに留学。 年末年始休暇で一時帰国した折に寮に立ち寄り、留学中の想い出や学び等貴重な経験を以下の通り話してくれた。

『タイのチュラロンコン大学では、様々な国籍の優秀な学生たちと出会い恵まれた環境で学んでいる。 授業後には知り合った友人たちと一緒に食事をしたり、休日には遠出の旅行を楽しむ等、かけがえのない交友関係を築くことが出来ている。 タイに来てからビジネスの世界に興味を持つようになり、タイの起業家や国連で働く方々との対話、国際関係の企業への訪問は私の将来に大きな影響を与える貴重な経験となりました。

あと半年の留学ですが、帰国後は、再び寮生として、寮のコミュニティに積極的に貢献させて頂きたいと思っています。』

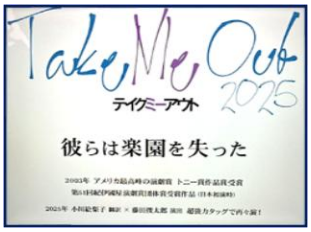
《タイ留学中の清水陽太君》

小山ういる君 戯曲「Take Me Out」で初舞台

成蹊大学理工学部3年の小山ういる君が米国のリチャード・グリーンバーグの戯曲の舞台”Take Me Out 2025”にシェーン・マンギット役で立つことになった。 ルーキーチーム11名を選抜するための一般公募計330人の中からオーディションを勝ち抜いての初舞台である。

公演は5月～6月に有楽町の読売ホール。 以下は小山ういる君のコメント。

『出演決定の知らせを受けた瞬間、とても光栄で嬉しい気持ちとともに大きな責任を感じました。 心に深く響く物語であり、自分の役を通してその世界観を届けられることを誇りに思います。 舞台での一瞬一瞬を大切にし、観客の皆さまと特別な時間を共有できるよう全力で挑みます。 是非楽しみにしていてください！』



＊＊＊ 寮生活 ＊＊＊

2024年（令和6年）度　寮祭

2024年11月23日（土曜日）午後6時～8時　　信陽舎　2階食堂

今年度の寮祭は、寮生15名の内５名が大学や家の事情により欠席のため10名が参加、招待者がケアハウス、理事、評議員、先輩舎友など11名で総勢21名と招待者が寮生よりも多いめずらしい寮祭となった。 午前10時、２階の食堂では寮生たちが伝統の五平餅の準備のため餅作りと秘伝の味噌だれ作りに精を出していた。 午後５時頃から、参加予定の理事や先輩舎友たちがお酒などの手土産を持参して続々と集まってきた。 桜堤ケアハウスからは急用で来られなくなった村田施設長の代理で長谷事務員が出席、御祝儀と差し入れとしてビールを頂戴した。

定刻の午後６時、参加者全員が席に着き松井副寮長の開会宣言で令和６年度寮祭は始まった。 髙橋寮長の挨拶、福與理事長の挨拶、そしてケアハウスの長谷様が村田施設長から託されたお祝のメッセージを代読された。 深澤副理事長の乾杯の挨拶の後、長谷川さんが用意してくれた豪華料理と寮生手作りの絶品五平餅などを肴にケアハウスや理事、先輩たちが差し入れてくれたビールやお酒、ワインで楽しい宴が始まった。

余興では、1年生の後藤亮太君の歌を皮切りに宮坂佳樹君の早口ラップ、駒井君のアニメソング、田牧優晴君のトランプマジックなどが披露されるなか、サプライズで長谷川寮母さんが指名されてカラオケの十八番・石川さゆりの ″天城越え″ を熱唱し大喝采を浴びた。 つづいて舎友の永原拓実君が十八番の ″島唄″ を披露。 次に（恐らく長谷川寮母さんの差し金と思われるが）ギター持参の先輩舎友山崎達也君の伴奏でさだまさしの ″案山子″ を歌うようにと福與が指名されたので、やむなくご披露した。 上級生では髙橋諒多君が高校時代の放送部アナウンサーで鍛えた美声でテレビドラマ ″水戸黄門″ の主題歌を見事に披露すると、駒井創君が何やら印籠のようなものを持って登場し、「ひかえろ～！ひかえろ～！この印籠が目に入らぬか！ ここに居わす方をどなたと心得る！ 今を時めく信陽舎の寮長にござるぞ！ 皆のもの ひかえろ！」と啖呵を切ると大喝采となった。 最後に負けじと登場したのは、寮きっての宴会男・小山ういる君。 寮一のハンサムボーイで魅力的ないい声の持ち主だ、これで歌も上手けりゃ仲間から妬まれるのだが、世の中よくできていて、歌い始めた途端に音程がずれるため、そのアンバランスに会場は一安心、そのギャップの面白さに大爆笑！ 大盛況も瞬く間に時が過ぎ、お開きの時が来た。 駒井創副寮長の音頭で三々七拍子の締めがあり楽しいひと時も午後８時30分に終宴となった。　　（運営記録より）

五平餅作りに励む寮生たち

ケアハウス長谷様挨拶

深澤副理事長乾杯

田牧優晴君トランプマジック

記念撮影

2025年（令和7年）卒寮生（五味零弥君・太田悠君）送別会

2025年2月22日（土曜日）午後6時～8時30分　信陽舎　2階食堂

今年の参加者は、寮生14名、理事・先輩舎友4名、桜堤ケアハウス1名、長谷川さんの計20名となった。 今回は参加者が少ないので、寮生たちの自主性を促すため、予算や献立、スケジュールなどの準備から本番までの段取り等を学び経験させる良い機会だということで、長谷川寮母さんは一切関わらず、全て寮生たちに任せた。 寮生達にとっては長谷川寮母さんの苦労が分かり良い経験になったようだ。

午後6時、食堂の入り口で後輩の寮生達で作るトンネルの中を主役の太田君と五味君が照れながら登場。 全員が席に着き、駒井副寮長の司会で送別会がスタート。 髙橋寮長の開会挨拶のあと福與からこれまでの寮会で話した講話集を記念に贈呈。 桜堤ケアハウスの小松指導員からはケアハウスのお年寄り手作りの素敵な記念品が二人に贈られた。 池野常務理事の乾杯の挨拶でお別れ会の宴が始まった。 途中、後輩寮生たちから二人に記念品（靴下）が贈られ、卒寮の二人から後輩たちに掃除用のモップが贈られた。 続いて卒寮生の太田君と五味君が4年間の寮生活を振り返って、「長谷川さんに叱られたお言葉を胸に社会で頑張ってまいります」とお礼の言葉を述べた。

宴もたけなわ、余興では在寮4年間で一度も芸を披露してこなかった太田悠君が指名され、山崎達也先輩舎友のギター伴奏で歌を披露。 次に五味君が得意のヒップホップダンスを踊りながら歌を披露すると、後輩の田畑尚大、青木創汰朗、1年生トリオの駒井創、後藤亮太、宮坂佳樹と次々にマイクを握り歌を披露、そして大トリは舞台デビューまじかの小山ういる君の大熱唱となった。 午後8時10分、全員で記念写真を撮影して閉宴となった。 招待者が帰った後の寮生たちだけの二次会は、二人との別れを惜しんで夜遅くまで続いたようだ。　　（福與記）

小松様から贈り物贈呈

太田悠君・五味零弥君のお別れ挨拶

熱唱する小山ういる君

お別れの記念写真

事務局便り

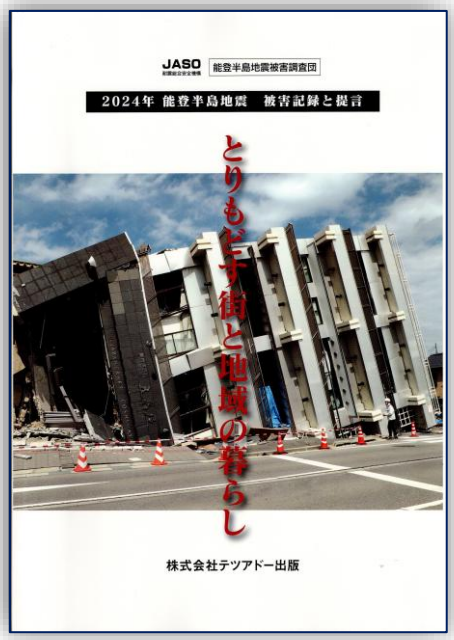
鈴木昭夫評議員（舎友No.154）能登半島地震の現地被害調査を実施、シンポジウムで講演

NPO法人JASO（耐震総合安全機構）のメンバーで信陽舎評議員である鈴木昭夫さん（No.154）は、2024年1月1日に発生した能登半島地震の3カ月後の4月、JASOによる被害調査団の一員（耐震アドバイザー）として現地に入り被害状況の調査を行った。

破壊された建物には多くの貴重な教訓が残されている。 それを記録するとともに被害の要因や対策を考えるために調査結果を書籍『2024年能登半島地震　被害記録と提言』≪JASO（耐震総合安全機構）能登半島地震被害調査団≫ にまとめ2025年1月に発行した。

鈴木昭夫評議員が所属するJASO（耐震総合安全機構）は、「地震に対して安全な住環境の構築」を目的とし、2004年に設立されたNPO法人（特定非営利活動法人）で、生活者の視点から、地震に対する安全性を総合的に捉え、「人のための耐震化」をテーマに様々な課題に取り組んでいる。 主に東京を中心として全国で、耐震アドバイザー派遣、耐震診断、補強計画等の活動を行うと共に、これまでも2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震発生の際に現地被害調査を行い報告書を出版している。

2025年2月6日、東京文京区の住宅金融支援機構本店で開催された『2024年度 JASO シンポジウム～能登半島地震から1年、今後の地震防災を考える』では鈴木昭夫さんは最初の講演者として登壇し「能登半島に於ける木造住宅の被害」と題した講演を行った。



書籍『2024年能登半島地震 被害記録と提言』

JASOシンポジウム『能登半島地震から一年‥』

信陽舎の紹介動画が完成　ネット（You Tube）上に公開！

岩原常務理事の尽力により、素晴らしい信陽舎の紹介動画が完成し、ネット（You Tube）上に公開されました。

インターネットで「**信陽舎 - You Tube**」と検索してご覧いただき、「**共有**」ボタンでお知り合いの方々に拡散していただければ幸いです。

年会費（2,000円）納入のお願い！　諸物価高騰の折、会報の印刷費用、郵送料などの値上がりにより、舎友会会計を圧迫してきております。 舎友会の運営は舎友の皆様の年会費で賄っていますが、このままでは会報の発行が危ぶまれますので、年会費納入のご協力を切にお願い申し上げます。

お便り大歓迎！

常時、舎友の皆さんの便りを募集しております。 随時受付を行っていますので遠慮なく下記事務局までどしどしお便りをお寄せ下さい。

☎ 舎友名簿に関するお願い ☎

舎友会では、個人情報保護の観点から「舎友名簿」の発行は行っていません。同期会又は各地区舎友会等を企画される折に、該当する舎友の連絡先を必要とされる場合は、お手数ですが下記事務局までお問合せ下さい。

≪ 会報「武蔵野」編集委員 ≫

福田　璋夫（116）	福與　卓臣（117）
深澤　勝吉（135）	五島　久揮（176）
原　　誠（220）	仁科　圭右（306）
田中　淳一（470）	岩原　　優（580）

文中挿入の挿絵（版画・スケッチ）等の作画は福與卓臣

会報「武蔵野」第16号 令和7年4月1日発行

発行人 ：　林　史典　（会　　長）
事務局 ：　福與卓臣　（事務局長）
〒225-0026　横浜市青葉区もみの木台 34-8
☎（045）902-2575　携帯☎ 090-9841-6349
E-mail : tof2943@citrus.ocn.ne.jp